



みんなが主役 支え合うまち ささやま 元気な地域づくり

篠山市社協では、認知症や障害の有無にかかわらず、みんなが主役の支え合う地域づくりを進めている。このために、まずは権利擁護の意識を高める必要があると考え、市から受託している地域包括支援センターが中心となって

権利擁護の理念や制度の啓発に力を入れてきた。取り組みの一つが、篠山市と協働して開発した啓発劇である。

「ずっと笑顔で暮らせるように 成年後見制度啓発劇」

市社協、地域包括支援センター、地域福祉課の職員による啓発劇は、認知症高齢者の暮らしの場面を演じる。

「大切にしまっていたわしの通帳がない。また盗まれたんや！」

「知らないうちに、おじいさんが高価な水晶玉を買っている。」

「財産や生活を守ってくれる成年後見制度を利用できるらしい」

暮らしに身近な場面設定の啓発

劇は、とてもわかりやすいと好評で、認知症や成年後見制度の理解、相談窓口の職員に対する親近感という面で手ごたえを感じている。

市社協の橋元事務局次長は「権利擁護の意識の高まりを地区単位の小地域福祉活動につなげることが大切。地域福祉推進計画にその実行方法を明記した」と話す。



わかりやすいと大好評!職員による住民向け啓発劇

元気な地域をつくる 地域福祉推進計画に基づく活動

市社協では、権利擁護と日常生活支援の仕組みづくりに向けて、

住民による見守り・支え合い活動から専門職連携による成年後見制度までを一体的に推進したいと考えている。このたび策定した第2次地域福祉推進計画は、市内19地区でワークショップを開催。また、

老人クラブや当事者団体、ボランティア連絡会などと、住民と専門職の連携の必要性などさまざまな課題について意見交換を行った。

ワークショップでの話し合いの結果、同計画では多様な組織・団体が話し合う「地区福祉会議」の開催を通じた小地域福祉活動の活性化を掲げた。

例えば、高齢者などの移動手段の確保に取り組んでいる地区における住民主体の課題解決や活動の発展を支援する方針だ。

市社協はこの計画書を柱に、住民が地域で気兼ねなく集い、高齢者も障害者も子どもも自分らしく暮らすことのできる元気な

地域づくりに向け、住民と一緒に取り組むを推進していく。



活発な意見が交わされた地区ワークショップ

平成23年度、篠山市社協では、社協内に若手中心のワーキングチームを結成し、柔軟かつ積極的な発想により「みんなが主役 支え合うまち ささやま」をスローガンとした「地域福祉推進計画(第2次)」を策定しました。また、篠山市も同時期に、「保健福祉総合計画」を策定するという事で、市職員と社協職員との協働による地区ワークショップを開催し、行政と社協が両輪となって地域福祉を推進するきっかけづくりができました。

今後も、さまざまな関係団体と連携をとり、地域包括ケア体制の構築に取り組んでいきます。



篠山市社会福祉協議会 会長 羽田 登喜雄